

第 3 回 会 議 録

付属機関又は会議体の名称		池袋駅周辺地域再生委員会（第3回）
事務局（担当課）		都市整備部 副都心再生担当課長
開催日時		平成28年3月28日（月） 午前10時00分～午前11時30分
開催場所		豊島区庁舎8階 議員協議会室
出席者	委員	岸井隆幸（委員長）、東京都 都市整備局 都市づくり政策部長（代理）、東京都 都市整備局 都市基盤部長、東京都 建設局道路管理部長、東日本旅客鉄道（株）投資計画部 担当部長、西武鉄道（株）執行役員 計画管理部長、東武鉄道（株）経営企画部長・池袋開発プロジェクト部長、東京地下鉄（株）鉄道本部 鉄道統括部長、（株）東武百貨店 広報部長兼総務部担当部長、東武ビルマネジメント（株）SC事業本部 常務取締役副本部長、（株）西武プロパティーズ 常務取締役、（株）そごう・西武 総務部 シニアオフィサー、（株）パルコ 開発部 部長、（一社）東京バス協会 常務理事、（公財）東京タクシーセンター 常務理事、東京商工会議所豊島支部 会長、豊島区観光協会 会長、池袋駅西口地区市街地再開発準備組合 理事長、池袋駅西口地区まちづくり協力者（株）三菱地所 開発二部 部長、としまF1会議委員、旧庁舎跡地活用代表事業者 東京建物（株）執行役員 都市開発事業部長、豊島区 区長、豊島区 副区長、豊島区 政策経営部長、豊島区 総務部長、豊島区 都市整備部長、豊島区 都市整備部 地域まちづくり担当部長、豊島区 都市整備部 建築住宅担当部長、豊島区 都市整備部 土木担当部長、国土交通省 都市局 街路交通施設課 企画専門官（オブザーバー参加）、国土交通省 都市局 まちづくり推進課 官民連携推進室長（オブザーバー参加）、UR都市機構 東日本都市再生本部 事業推進部 担当部長、豊島区 都市整備部 都市整備部都市計画課長
	事務局	豊島区 都市整備部 副都心再生担当課長
公開の可否		公開
非公開・一部公開の場合は、その理由		
会議次第		<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 委員長挨拶 3. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 池袋駅周辺地域のまちづくり動向について 4. 議事 <ol style="list-style-type: none"> 1) 池袋駅周辺地域まちづくりガイドライン（案）について 2) 今後のスケジュールについて 5. その他 6. 閉 会

■委員長挨拶

- ・南池袋公園の開園も間近で、いろいろなイベント等も予定されており、池袋が少し元気になってきたと思われる。このガイドラインを弾みにして、一步、二歩でも前進したいと思っている。是非、活発な議論をお願いしたい。

■議事

【岸井委員長】

- ・まずこの委員会の運営、資料の確認について、事務局から説明いただきたい。

【事務局】

(協議会の運営等について事務局より説明)

【岸井委員長】

- ・協議会の運営等について、質問等があればお願いしたい。
- ・本日は傍聴希望の方はいらっしゃるか。

【事務局】

- ・傍聴希望は10名となっている。また、議事の前に写真撮影の希望がある。

【岸井委員長】

- ・事務局で傍聴希望者等の誘導をお願いしたい。

【岸井委員長】

- ・最初に、報告事項1について、報告をお願いしたい。

【事務局】

(資料1について説明)

【岸井委員長】

- ・何か質問はあるか。なければ、引き続き、議事1について説明いただきたい。

【事務局】

(資料2及び3について説明)

【岸井委員長】

- ・資料3の3ページにガイドラインの役割が記載してある。これからでてくる様々なプロジェクトは、基本的にはこのガイドラインを尊重しながら、同じ方向に向かっていくことになると思うので、そういう目で見てください、意見があればいただきたい。

【委員】

- ・今、安全性が非常に欠けているのは地下街だと考えている。人混みがすごい状況であり、地下から地上に出やすくする具体的な将来像を教えてほしい。
- ・来街者にわかりやすいサインは回遊性の向上にも役立ち、重要と思う。どのように考えているか教えてほしい。

【事務局】

- ・地下街の混雑については喫緊の課題だと考えている。資料3の30ページ、戦略2の③の二項目目にあるように、案内サインの統一についてぜひ成し遂げたいと考えている。この件については、事業者とも合意のうえである。

資料4のまちづくりの推進体制の中段の地下空間整序化ワーキングにおいて、バリアフリーとともにサインの連続性についても検討する予定である。すでに新宿では、ある程度サインの統一化がオーソライズされており、それにならって池袋も今後チャレンジしていきたいと考えている。

- ・地下街の空間が狭いといった抜本的な問題は、今のところデッキの整備と地下空間そのものの拡張の二つの方法があると考えており、今後の検討課題と思っている。
- ・地下から地上へのスムーズな移動については、例えばエスカレーターやエレベーターの整備や、サンクンガーデンなども必要になってくると考えている。事業者の方々と一緒になって、引き続き協議していきたい。

【委員】

- ・新宿では、いろいろな事業者がいるなかで、岸井委員長にもいろいろご指導いただきながら、つい先日、基本ルールがまとまった状況である。今後、それをもとにさらに各事業者と調整していく予定である。この取り組みを参考に、池袋をはじめ、主な駅にも広げていきたいと考えている。

【岸井委員長】

- ・新宿駅、渋谷駅、池袋駅と東京駅の四つ大きなターミナルがあって、それぞれバラバラのサインでは外国の方に分かりづらいだろうということで、東京駅と新宿駅が先行して取り組みを行っている。ほかのエリアもなるべく同じようなシステムを用いて、分かりやすくしようと、都が中心となって2020年までの実現を目指して進めているところである。池袋はちょっと大変であるが、がんばりたい。
- ・もう一つは、特にパラリンピックである。多くの方が来日し、日本にとっても高齢社会の中でどうやってわれわれが過ごしやすく、楽しめる空間をつくるかという意味でたいへん大事である。池袋駅にとってもパラリンピック対応は、正直言って結構大変になると思うが、そういう目でもガイドラインを見ていただきたい。

【委員】

- ・サインの統一は時間がかかるように思われる。池袋の地下街は碁盤の目でできており、だいたい東西南北を向いている。まずは、地下街の交点に方角を示す、あるいは東西南北のサインを付けることをまずやれば、非常に分かりやすくなるのではないかと思う。その次にサインの統一がベストではないか。また、外国に行くと、その国であればどの都市に行っても同じサインで分かりやすい。東京だけで統一するのではなく、ユニバーサルデザインでお願いしたい。

【岸井委員長】

- ・資料3の31ページのところにロンドンの例がでていますが、オリンピックのときにレジブルロンドンというシステムをつくり上げて、ロンドン市内のサインをある程度統一した。日本もそれに負けないよう今いろいろと検討しており、まずは大きなターミナルから取り組んでいる状況である。
- ・新宿駅を例にすると、かなり複雑なターミナルであるため、ある程度結節になる空間を同じ言葉で示すこととした。池袋駅もかなり状況が近いところがあり、東と西とい

うのがまず大きな方位で、その東の中で中央があり、北があり、南があるといった整理を行っている。また、新宿駅では利用者の意見も聞きながら整理したと聞いている。利用者が使っている言葉と違う表現では、結局使われないという話にもなりかねない。

- ・新宿駅では、公共サインがまず優先で、それを邪魔しないように商業サインをつくるといった大原則について鉄道事業者など関係者から同意をいただいた。サインはたいへん関心の強いところであるため、そういったことも含めて、2025年にはなんとかきれいになるよう、ワーキングでの検討など、是非、がんばってほしい。

【委員】

- ・「ファミリー層が住みやすい」というような文言が見られるが、具体的にどうするのが欠けるように思われる。特に戦略1のアート・カルチャーに関連したところで言うと、どちらかといえば海外の人たちをどれだけ集めるかといったところに重点が置かれているような感じがする。オリンピックを目指してというところがあるため、そういった文になることはわかるが、今住んでいる人たちや日本国内の人たちに、アート・カルチャーがどれだけ響くのかといったほうが重要ではないかと思う。芸術祭などが地域や地方で行われており、今、非常に盛り上がっているところも多い。芸術祭を行っているところで成功している地域は、その地域の子どもたちや人を巻き込んで芸術祭を盛り上げていくということを、何年間も連続してやっているところが非常に多い。外から来た海外の人たちを集めることももちろん重要であるが、地域の人たちが一緒に盛り上がっていかないとアート・カルチャーを受け入れるまちとしては、ちょっと弱いのではないかと思う。
- ・戦略1の⑦に、アーティストの居住空間の確保のために、リノベーションを行うといったことが記載されている。今年度の予算に、リノベーションまちづくりがあったかと思うが、これはファミリー層であったり、女性の住みやすいまちにするために、リノベーションを活用するといったことで予算が付いていたかと思う。もちろんリノベーションをアーティスト支援機能に使っていくということもあると思うが、住みやすいまちにするためにリノベーションを使うといったことも、もう少し重視してほしい。

【事務局】

- ・戦略1については、例えば④の二項目目に、ファミリー層や女性の暮らしやすさを支える機能など多様なニーズに応えるまちづくりを進めるといったことを記載している。また、戦略4の⑥でも記載している。
- ・アート・カルチャーとの関係では、なかなか具体的なことが見えていないところもあるため、今後協議しながら内容については詰めていきたいと思っている。
- ・リノベーションについては、区の事業として居住支援も行っている。このガイドラインではなかなかそこが見えてこないため、記載内容について工夫をしたい。

【岸井委員長】

- ・ファミリー層が暮らしやすいとか子育ての施設があるとか、そういうことだけではなく、若い人たちや住んでいる人たちがアート・カルチャーとどう関わるかといったことも、もう少し言及すべきだと思う。学校もたくさんあるため、教育の場でもアート・

カルチャーをみんなで一生懸命やるとか、池袋のまちを使って何か楽しめることをやるとか、そういった上で若い人たち、あるいは子どもたちを見るといった視点を、もう少し強化してはどうかと思う。

【委員】

- ・豊島区の特徴として、ターミナルと生活空間が非常に近く、密接に関係しているところがあげられる。そこを住みやすくすることは、豊島区の特徴を打ち出していく意味でも非常に重要である。生活とターミナルのにぎわいとか、あるいは文化とつながっていくところが豊島区の特徴になっていくと考えている。まだその辺についてガイドラインではうまく表現できていない部分もあり、アート・カルチャー都市構想の戦略で打ち出していく予定であるため、うまく組み合わせながら、しっかりと打ち出していきたい。

【岸井委員長】

- ・戦略1のあたりにしっかりと書かないといけないと思う。そういう視点を明確にしておかないと、埋没してしまう可能性がある。

【委員】

- ・全体的に人が歩けるように回遊性を持たせて、なおかつ文化機能とか産業機能で盛り立てるという方向性については異論がなく、賛同する。
- ・30 ページの戦略2の①の5項目目に新駅について記載があるが、どのような計画で、どの程度まで決まっているのかを教えてください。
- ・32 ページの戦略3の④について、歩ける空間をつくっていくことはいいと思うが、池袋は商業機能がものすごく多いため、歩ける空間をやったときに荷捌きはどのようにかということが、非常に重要な問題になると思っている。荷捌き等のルール化が記載してあり、また、社会実験なども行っているが、この点については地元の人との協力なしでは成り立たないと思うため、今後もしっかりやっていただけたらと思う。
- ・都電荒川線についてあまり書かれていない。池袋のまちがサンシャインから造幣局のほうに広がっていくなかで、都電は非常にポテンシャルがあり、まちづくりにいかに空間だと思っている。また、補助81号線の道路整備もやっており、にぎわいづくり等に活かしてほしい。都電は、王子とか大塚を通過して、雑司が谷、早稲田にも行くことから、動線としてはすごく立派だと思っている。池袋の拠点性の向上や、交流といった点でもかなり期待ができるとしており、そのへんを意識して取り組んでほしい。

【事務局】

- ・新駅につきましては副都心線の東池袋駅を想定している。当初は実現しなかったが、東京メトロとは、一定の乗降客が見込めた場合には新駅について検討するというところで進めている状況である。具体的には、現在、有楽町線の東池袋駅は、周辺の開発が進む中で乗降客が相当増えており、そういった中で実現に向けて東京メトロと協議していくという段階です。
- ・荷捌きについては、昨年11月に社会実験を行った。地元の方々の協力や、荷主や商店主の方々にも協力をいただきながら実験を行った。池袋駅周辺を歩行者優先の空間に

していくためには、荷捌き対応をどうするかが一番の課題だと認識している。

- ・都電については、当然のことながら都内で最後の路線であるため、その資源を生かした形でどういったまちづくりを進めていくかも考えなければならないと思っている。

【委員】

- ・先日、ヨーロッパへ行ったとき、路面電車が足の悪い方、杖をついている方が平気で乗り降りができるようになっていた。フランスのストラスブールでは、本当に路面電車でまちができあがっており、大きな駐車場がその終点駅にあるというまちづくりを行っていた。池袋も路面電車の計画があるようだが、駅前広場を歩行者優先にするのとあわせて、路面電車の沿線等に、車で来るお客さんのための大きな駐車場を整備してはどうか。
- ・都電荒川線と新しい路面電車がつながるようなことを考えていくと、東京はまだまだ安心・安全なまち、エコなまちになるような気がする。早稲田大学や立教大学など、大学を回っていけば採算が取れないことはないと思う。ぜひ東京都のほうでも検討してほしい。

【事務局】

- ・33 ページの一番上の真ん中の図は、将来的に環状5の1号線の地下道路ができたときの駅前のイメージである。明治通りは通過車両が通行できないような形となっている。右下のところには赤い電車のようなものがあるが、これは豊島区の構想として、ワンルートのLRTが通るとすればこのルートの可能性があるといったことで記載してある。平成15年以降、ワンルートのLRT部分と都電荒川線に接続する部分等について検討してきた。引き続き、この歩行者優先の空間の実現と並行して、こういった公共交通の在り方について検討していくことになると思う。

【岸井委員長】

- ・おそらく32ページあたりに、都電荒川線の活用とかを書くことになるのではないかと。都電荒川線を意識したネットワークについて考えてほしい。

【委員】

- ・池袋駅を中心としたまちづくりではなく、全体像を見渡した中でどのように豊島区を発展させていくか、安全・安心のまちを標榜しながらがんばっていくかということが一つの懸案であると考えている。
- ・造幣局跡地を防災公園として指定されてしまうと、永久的に建物がつくれなくなる。東池袋駅から280メートルのところは何もできない防災公園はもったいない。三日以内にヘリを飛ばして、四日以降にテントを張って物資をそこに置くだけの防災公園なら、避難広場としてもいいわけであり、避難広場にしておけば将来そこを開発できる余地がのこる。
- ・先般、都知事と懇談したときに、都知事の夢は公園に保育園をつくりたいとおっしゃっていた。もし豊島区が手を挙げたらどうするかと尋ねたところ、計画を持ってくれば、検討するとおっしゃっていた。
- ・一方で、区庁舎1階のとしまセンタースクエアが365日満室のように、豊島区にはコ

ンベンションホールが少ない。そういった点を考慮して、造幣局跡地を平常時はコンベンションホールに、非常時には防災センターということをして区民が決議すれば、東池袋駅から 280 メーターのところのコンベンションホールは成り立つと思う。羽田への直行など、メリットを考えたら再検討をする余地があるのではないかと考えている。

【事務局】

- ・造幣局東京支局は、約 3.2 ヘクタールの敷地がある。現在、東側の緑色の部分、半分以上の約 1.7 ヘクタールが公園に、西側の約 1.5 ヘクタールが市街地整備を行う計画であり、公園については今年の 1 月に都市計画決定が終了している状況である。
- ・防災公園という言い方をしているが、都市計画法上は都市計画公園という扱いである。ヘリポートの整備なども含めて防災機能を充実させるための公園という意味で、防災公園という名称を使っている。この 1.7 ヘクタールの公園は、公園が少ない豊島区にとって、完成すると区内で最大の公園にある。よって、災害時には区内全域の物質の搬出入の拠点にしようと考えている。また、東池袋 4、5 丁目の木密地域とも隣接している地域でもあるため、災害時には一時避難をする場所としても考えている。
- ・最初に、都知事から公園内に保育施設をといた話もあったが、現時点では法的にちょっと無理だと思われる。今後、法律の緩和などの中で可能性が出てきたときには、ここが対象となるかどうかも含めて、区民のニーズに合わせた用途がどういう形でできるのかといったことは区として検討しなければならないと思っている。
- ・コンベンションについては、造幣局がさいたま市に移転をするといった段階で、いろいろな用途も含めて検討を行った経緯がある。その中で、事業者の要望が非常に強かったのは研究機関のある複数の大学等の教育研究機関であった。現時点では西側のピンク色の部分、市街地整備部分の 3 分の 2 程度は、教育研究機関に限定した形で整備することを考えている。残りの 3 分の 1 については木密地域の解消、安全性の向上に資する種地とすることで、まちづくり計画をつくったところである。この地でコンベンションセンターをつくりたいといった事業者からの要望は、その時点ではなかったというのが状況である。

【委員】

- ・結論ありきではなく、特定都市再生緊急整備地域の指定を受けたことも踏まえ、これから豊島区がいかに発展していくかということを考えて、再考する必要があるのではないかと考えている。

【岸井委員長】

- ・コンベンションみたいなものは、アート・カルチャーの概念に入るのか。

【事務局】

- ・コンベンション側の施設として、直接指定されているわけではないが、表現する場として、コンベンション機能が必要との認識はある。先ほどの造幣局跡地の件であるが、すでにサンシャインシティの中に一定規模のコンベンション機能があるということ、それから市街地開発の中で、サンシャインシティと連携をした機能を持たせることで、ある程度その機能の代替になるものが可能になるのではないかと考えている。それも

含めて今後検討していきたい。

【委員】

- ・歩行者優先の駅前広場について、今いろいろとイメージが書かれているが、サンクンガーデンを実際どこに設けるのか、デッキをどこに降ろすのか、あとは歩行者優先のイメージということでパースが描かれているが、これが実際どこまでできるのかということに関しては、実は非常に難しい面があると思われる。
- ・資料4に、交通基盤整備方針の検討スケジュールが示されているが、なるべく早めに関係者と協議をして、課題等の整理を行ってほしい。その時は、課題の改善だけでなく、新しい池袋のまちをつくるためにこういったものがぜひとも必要だという理論構築とか根拠をしっかりと持って、協議を進めてほしい。その時に、5つの戦略の中で一番特徴的なものが、戦略1にあるアート・カルチャー構想だと思う。そういったものを取り入れながら、具体的な議論ができればと思う。

【委員】

- ・サインの統一化に関連して、いろいろな外国人の方とかを考えると多言語化は必要だと思っている。あまり多言語化という言葉が出てきていないような気がするが、これは当たり前のことであって、この統一化の中に包含していると考えていいのか。
- ・情報提供として、都市再生特別措置法は今国会で改正するという事を閣議決定し、今、国会で審議中である。その中には再開発のいろいろな要件緩和とか、災害時に継続的にエネルギーが活用できるような協定制度の創設であるとか、コンベンションを金融支援の対象に加えるとか、いろいろな改正を検討している。さらに、ソフトな部分では、エリアマネジメント的な話として、道路法の改正により道路協力団体というものを位置づけられるにすることを検討している。この道路協力団体というのは、道路の維持管理に関していろいろ貢献してもらおう民間の方々に、そういう方々であれば、にぎわいづくりなどの際の占用許可に関する手続きを簡素化したり、いろいろなにぎわいとか、まちづくりに関する活動をしやすくするような改正を行っているところである。今後、具体的に取り組みを進めていくときには関連するかもしれないため、もし何かあれば、いろいろ相談していただきたい。

【事務局】

- ・サインの統一の中には、多言語化、インバウンドは含まれている。分かりづらい、あるいは特出ししたほうがというのであれば、表現を検討したい。

【岸井委員長】

- ・36ページの戦略5の②に、超小型モビリティや電気自動車、燃料電池自動車などと記載があるが、具体的に何かイメージがあるのか。

【事務局】

- ・これからそういったものが活用されるだろうという予測のもと、これから対応していくということで記載した。具体的なイメージ等はない。

【岸井委員長】

- ・少なくとも水素ステーションのようなものを整備してほしい。ちなみに、現時点では

ないのか。

【事務局】

- ・区内での水素ステーションの設置について、情報はない。

【委員】

- ・劇場空間について、建築物の中のホールみたいなものもあれば、あるいはセットバックした空間でストリートパフォーマンスなどをやっていくというのものもあるかと思う。そういった空間の整備は、もちろん豊島公会堂の建て替え等、公で整備するものもあるが、民間で整備するものもある。民間による劇場空間の整備に対してはインセンティブを与えるなど、ルールづくりみたいなものも今後検討していきたいと考えている。このガイドラインではあまり表現ができていないため、アート・カルチャー都市構想の戦略と整合を取りながら検討したい。
- ・公共側の空間についても、これまでさまざまな規制などがあり、地域の方々の場所として十分活用できていないところがあり、活用に関するルールづくりのようなものも進めていきたいと考えている。このあたりもまだ十分表現できていないところがある。
- ・特に若い方を中心としたさまざまな取り組みが、ガイドラインにどういうふうに反映されていくのかといったところも、アート・カルチャー都市構想の戦略とも整合を取りながら、記載していくよう最終的に詰めていきたいと考えている。

【岸井委員長】

- ・東京の芸術劇場を池袋のためにうまく利用していくことは、戦略的にも大事だと思う。どこかに記載できないか検討してほしい。

【委員】

- ・34 ページの戦略4の①は、普通の防災計画のような話と帰宅困難者対策の両方が入ってくると思う。④は都市再生特別措置法の改正に関連し、都市再生安全確保計画の中に積極的にエネルギーの話も盛り込んでいくことを、これから国のほうからも関係者の方々にお願いやお知らせなどを行っていくことになるかと思う。この普通の防災や帰宅困難者対策と、このエネルギーの話を上手に組み合わせて今後の具体的な計画に落とししていく中で、いろいろ配慮いただけるとありがたい。

【岸井委員長】

- ・池袋には地域冷暖房システムもあるし、豊島清掃工場の排熱エネルギーをどう使うのかといった話もあるので、さまざまに可能性を含んでいると思われる。

【岸井委員長】

- ・本日、指摘いただいた点について、私と事務局のほうでいったん整理し、関係する方については別途、意見交換させていただき、内容をまとめることで了承いただきたい。
- ・サイン関係は、地下空間ワーキングの中で検討しているものと、東京駅や新宿駅で検討しているものとを突き合わせて、ある程度池袋としてのシステムを考えていく必要がある、資料4のスケジュールよりもう少し早く検討を進めなければいけないと思われる。

- ・新宿駅は、ターミナル全体を示す地図が十分になかったため、西武新宿駅から京王新線新宿駅まで全部入ったような共通の広域地図をつくることになった。この地図に関しては新宿区が2年に1回更新するという事も決めた。このルールに従うなら、その基盤の図を豊島区が管理するというのが一番素直な方法だとは思ふ。そういった各地区で動いて状況をよく踏まえて、早急に池袋周辺ではどのようなものが必要なのかということを検討してほしい。

【事務局】

- ・パブコメは4月中旬から5月中旬を予定している。それに対する意見対応等がどのくらいかかるかにもよるが、おそらく5月末から6月に策定されると思われる。

【岸井委員長】

- ・パブコメにより、もし大きな変更等が出るようなことがあれば、委員会を開催しなければならないと思われる。また、なくてもパブリックコメントがどういう状況であったかというのを、各委員に何らかの方法で知らせて欲しい。

■その他（区長挨拶）

- ・池袋駅周辺は、昨年7月の特定都市再生緊急整備地域の指定以降、まちづくりの機運が上がっており、具体的な計画も進んできた。まちづくりが加速してきたことを実感しており、構想を具体的な姿形に示していくことこそが、今後の豊島区の責務であり、全精力をつぎ込んでまちづくりを進めていきたい。
- ・本委員会で策定する「まちづくりガイドライン」は、池袋のまちづくりの方向性を示すもので、今後の開発計画の指針となるものである。
- ・この委員会は本日が3回目であり、回数は少ないが、岸井委員長の進行のもと、委員の皆さんの一人一人の意見が反映されていると考えている。今後、具体的な計画段階では、関係者の皆さんと丁寧に協議をし、皆さんが納得する形で進めていきたい。今後とも池袋のまちづくりにご協力をお願いする。

以上

会議の結果	
提出された資料等	資料 1 池袋駅周辺地域のまちづくりの動向 資料 2 池袋駅周辺地域まちづくりの将来像と戦略 資料 3 池袋駅周辺地域まちづくりガイドライン（案） 資料 4 池袋駅周辺地域の都市再生に向けた検討スケジュール 参考資料 第2回池袋駅周辺地域再生委員会議事録 池袋駅周辺地域再生委員会名簿
その他	